

事業の概要

ちぎりアイランド(阪南2区)は、大阪府岸和田市の沖合300mで埋立造成が進められている約142haの人工島です。埋立は、公共工事から発生する建設発生土や浚渫土砂を有効利用して進めており、既に、岸和田市貝塚市クリーンセンターや各種企業が進出し稼働しています。



土地利用計画図



阪南2区整備事業概要

- (1) 土地利用面積：約142ha(埋立面積 約138ha)
- (2) 埋立土量：約1,910万立方メートル
- (3) 全体土地利用・施設計画
 - ・埠頭用地・保管施設用地：地域における流通機能の合理化を図ります。
 - ・製造業用地：岸和田市域の環境改善のための工場移転や、産業活性化に資する企業の移転・進出用地として活用します。
 - ・供給処理施設用地：清掃工場等として活用します。
 - ・マリナー用地：埋立地の北西部に位置し、レクリエーションゾーンの形成を図ります。
 - ・緑地：地区の景観向上、人工干潟やマリナーと一体化した海浜レクリエーションゾーンの形成を図ります。
 - ・道路用地：幹線(臨港)道路として活用します。

阪南2区 区域分割

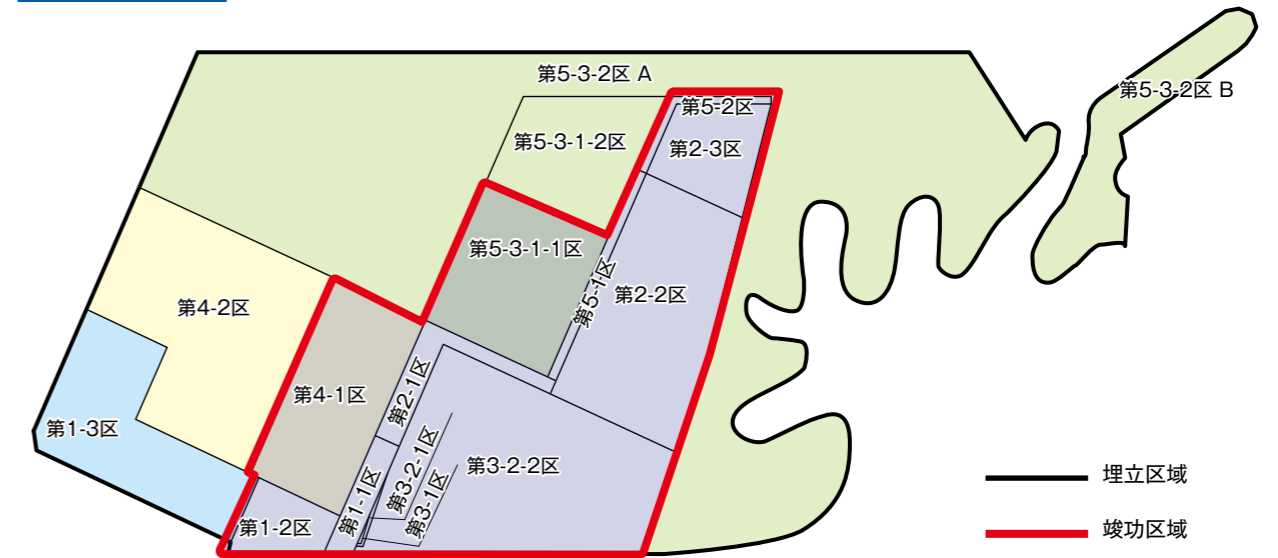


図-3.1 竣工区域(平成28年3月時点)(大阪府港湾局資料)

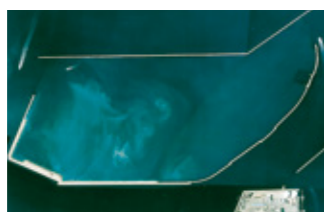
表-3.1 竣工面積(平成28年3月時点)

(大阪府港湾局資料)

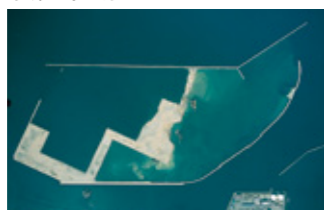
区域	面積 (㎡)	竣工期限または竣工年月日	区域	面積 (㎡)	竣工期限または竣工年月日
第1-1区	11,784.01	H13. 2.22	第3-2-2区	153,784.87	H17. 3.18
第1-2区	19,617.61	H15. 6.30	第4-1区	78,619.69	H21.12.24
第1-3区	80,759.20	H32. 1.31	第4-2区	131,649.73	H31. 1.31
第2-1区	17,512.06	H13. 2.22	第5-1区	6,506.08	H13. 7.18
第2-2区	103,706.59	H13. 7.18	第5-2区	4,900.56	H14. 2.25
第2-3区	33,031.34	H14. 2.25	第5-3-1-1区	65,387.22	H27. 3.20
第3-1区	168.44	H13. 2.22	第5-3-1-2区	66,657.14	H30. 1.31
第3-2-1区	608.04	H15. 2.6	第5-3-2区	609,970.18	H33. 1.31
合計	1,384,662.76				

平成28年3月時点 竣工面積49.6ha(495,626.51㎡)

沿革



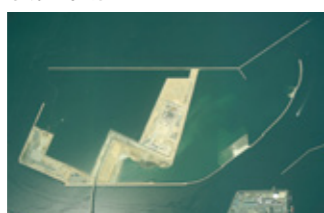
平成11年11月



平成13年2月



平成15年2月



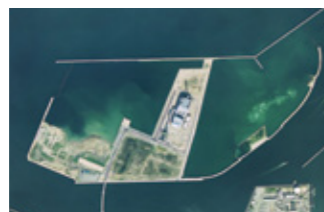
平成16年3月



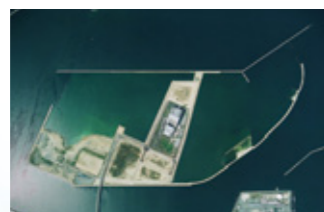
平成16年10月



平成17年3月



平成18年9月



平成19年9月

1998

平成10年 3月 公有水面埋立免許願書の出願
(大阪府港湾局)

1999

平成11年 1月 公有水面埋立免許取得(大阪府港湾局)

平成11年 4月 公共工事間流用の指定地に位置付け

平成11年11月 埋立事業開始

2001

平成13年 2月 第1-1区(11,784.01㎡)、第2-1区
(17,512.06㎡)、第3-1区(168.44㎡) 竣功

平成13年 7月 第2-2区(103,706.59㎡)、第5-1区
(6,506.08㎡) 竣功(清掃工場用地他)

平成13年 9月 新町名として岸和田市岸之浦町に決定

2002

平成14年 2月 第2-3区(33,031.34㎡)、第5-2区
(4,900.56㎡) 竣功

平成14年 9月 浚渫土砂受入開始

平成14年12月 岸之浦大橋暫定供用開始。
建設発生土を海上輸送から陸上輸送へ

2003

平成15年 2月 第3-2-1区(608.04㎡) 竣功

平成15年 6月 第1-2区(19,617.61㎡) 竣功

2004

平成16年 2月 人工干潟完成(南干潟)

平成16年 4月 阪南事業所移転(阪南1区から2区へ)

2005

平成17年 3月 第3-2-2区(153,784.87㎡) 竣功
(第1期製造業用地)

平成17年 4月 (財)大阪産業廃棄物処理公社から
阪南2区事業を継承

平成17年 8月 ちきりアイランドまちづくり会設立

2006

平成18年 4月 第1期製造業用地(12.2ha)の公募開始
(大阪府港湾局)

2007

平成19年 4月 岸和田市貝塚市クリーンセンター操業開始

平成19年 8月 ちきりアイランド人工干潟見学会の開催

2008

平成20年 9月 阪南2区整備推進事業用地(概ね
第2-3区、第5-2区の範囲、約30,000㎡)
の使用許可による使用者募集(岸和田市)

2009

平成21年 1月 岸之浦大橋一般開放

平成21年 3月 万能堀に「私たちの海辺」をテーマとした
地元小学生の絵画を展示

平成21年11月 ちきりアイランドまちびらき記念式典開催

平成21年12月 第4-1区(78,619.69㎡) 竣功
(第1期保管施設用地の一部)

2011

平成23年 6月 ちきりアイランド進出企業等で構成する
阪南2区連絡協議会設立

2013

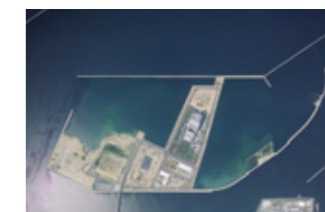
平成25年 8月 第1期保管施設用地(1.8ha)の公募開始
(大阪府港湾局)

2015

平成27年 3月 第5-3-1-1区(65,387.22㎡) 竣功
(第2期製造業用地の一部)

平成27年 3月 第2期製造業用地(3.4ha)の公募開始
(大阪府港湾局)

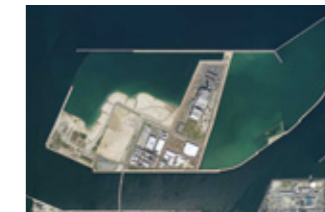
平成27年 5月 第1期保管施設用地(4.2ha)の公募開始
(大阪府港湾局)



平成20年9月



平成21年5月



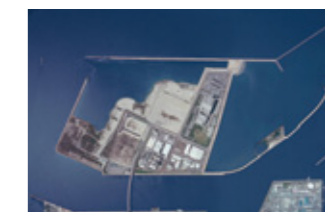
平成22年8月



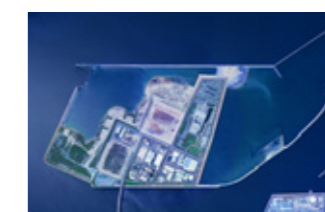
平成23年4月



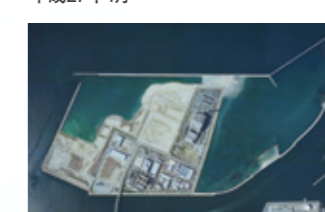
平成25年4月



平成26年4月



平成27年4月



平成28年2月

航空写真で見るちきりアイランド埋立のあゆみ



平成11年11月 外周護岸が概成した後、埋立土砂の投入を開始しました。土砂の投入方法は、護岸開口部から進入させた土運船による直接投入方式です。



平成15年2月 清掃工場移転用地として早期に造成した第2-2区・第2-3区が、購入土(山土)等を用いて竣功しています。また、岸之浦大橋の暫定供用開始によって、建設発生土は、ダンプトラックによる陸上輸送に変更しています。南干潟(人工干潟)を作るため、干潟周囲の潜堤が築造されています。



平成13年2月 緊急に用地造成が必要とされた第1-1区・第2-1区(幹線道路用地の一部)が、購入土(山土)等を用いて竣功し、北干潟(人工干潟実験区)も完成しています。



平成16年3月 南干潟(人工干潟)が完成しています。購入土(山土)等を用いて竣功した第1-2区では、建設発生土受入基地が建設中です。第3-2-2区(第1期製造業用地)の埋立て進行中です。

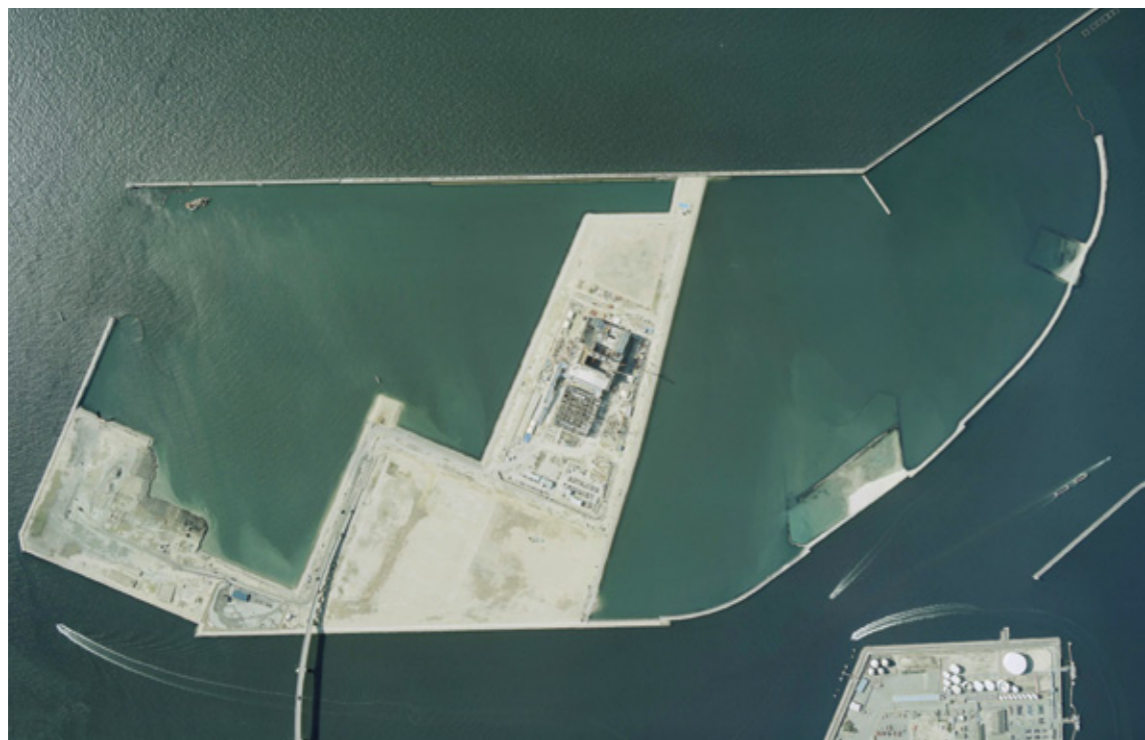
航空写真で見るちきりアイランド埋立のあゆみ



平成16年10月 建設発生土受入基地は、阪南1区から阪南2区(第1-2区)へ移転しています。



平成18年9月 第4-1区(第1期保管施設用地の一部)の埋立が進行中です。建設発生土累積埋立量は、500万トンに達しました。



平成17年3月 第3-2-2区(第1期製造業用地)が竣工しています。建設発生土埋立区域は、第3-2-2区から第4-1区(第1期保管施設用地の一部)へ変更されています。



平成19年9月 岸和田市貝塚市クリーンセンターが操業中です。

航空写真で見るちきりアイランド埋立のあゆみ



平成20年9月 浚渫土砂累積埋立量は、200万m³に達しました。



平成22年8月 第4-1区(第1期保管施設用地の一部)が竣工しています。建設発生土埋立区域は、第4-1区から第5-3-1区(第2期製造業用地)へ変更されています。



平成21年5月 岸之浦大橋が一般開放されています。第3-2-2区(第1期製造業用地)では、進出企業が操業中です。

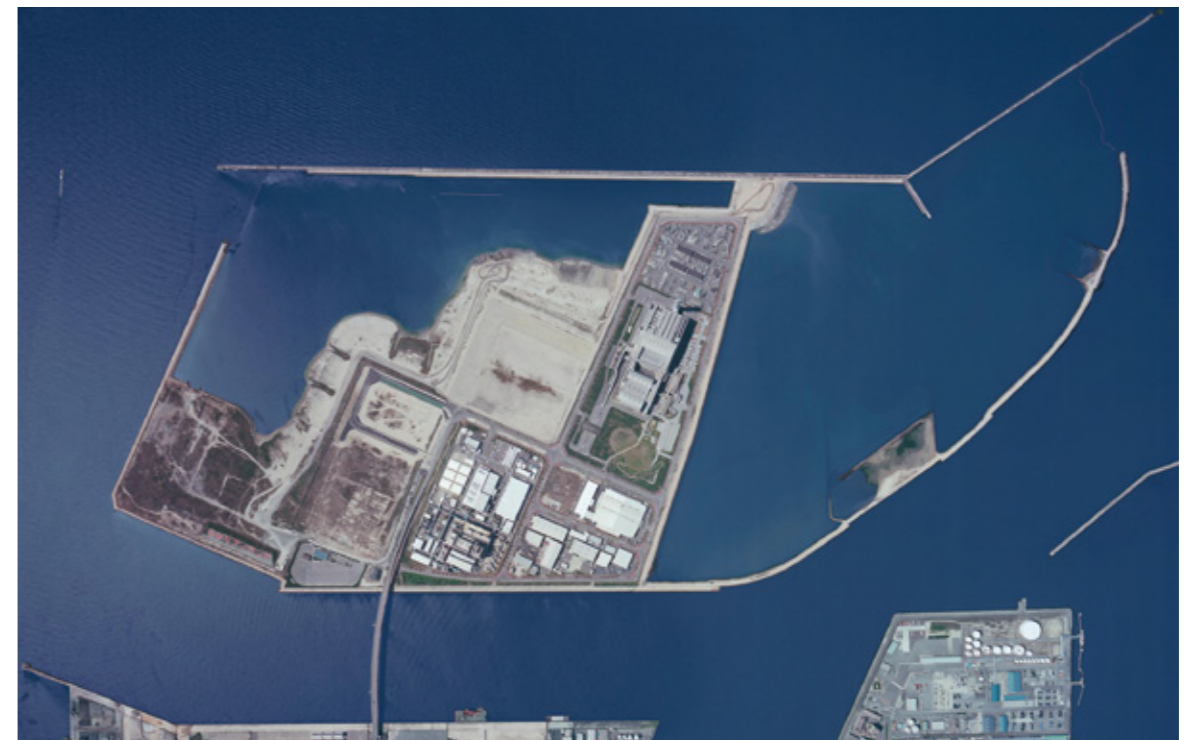


平成23年4月 建設発生土受入基地の南側では、ちきりアイランドのランドサイン(土の土台を築造し、その上に塗料で「ちきりアイランド」という文字を描いたもの)が完成しています。

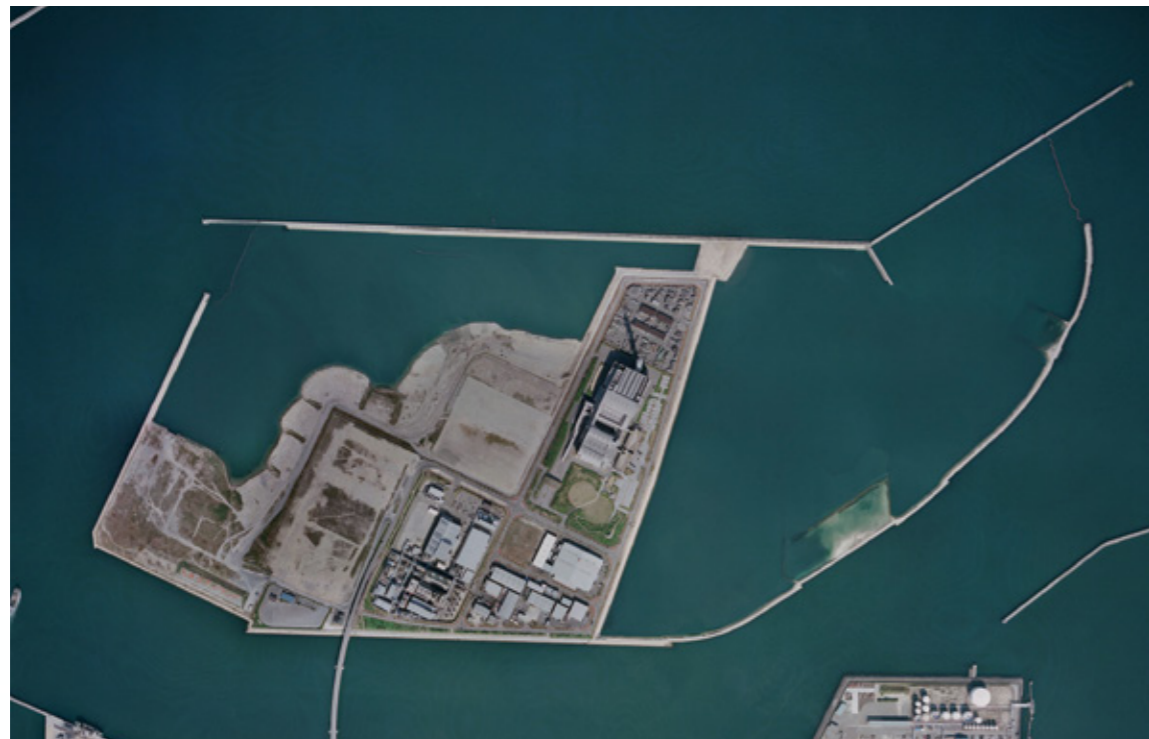
航空写真で見るちきりアイランド埋立のあゆみ



平成24年4月 第5-3-1区(第2期製造業用地)の埋立が進行中で、陸地化した区域(東側)から順次最終覆土が行われています。



平成26年4月 第5-3-1区(第2期製造業用地)のうち、早期に竣工が見込まれる区域の最終覆土が完了しています。



平成25年4月 西側臨海緑地と北側親水緑地にまたがる扇形の区域を先行的に暫定緑地として造成するため粗大礫等による埋立が行われています。



平成27年4月 第5-3-1-1区(第2期製造業用地の一部)が竣工しており、第4-1区(第1期保管施設用地の一部)では進出企業が操業中です。暫定緑地の陸地化が完了し、その南側の西側臨海緑地で、粗大礫等による埋立が行われています。建設発生土累積埋立量は、1,000万トンに達しました。

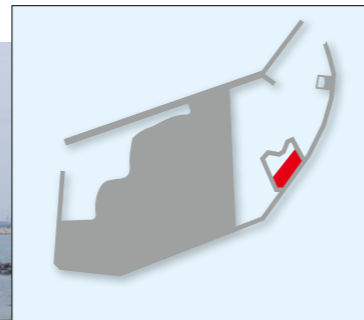
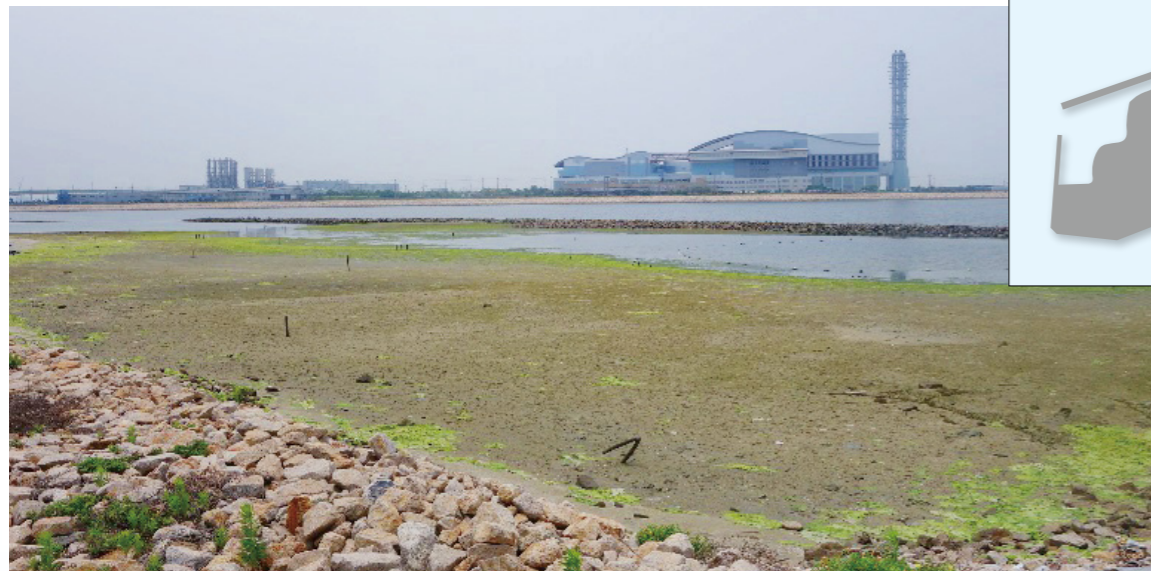
航空写真で見るちきりアイランド埋立のあゆみ



平成28年2月 第5-3-1-2区の陸地化が完了しています。建設発生土埋立区域は、第5-3-1-2区から第4-2区(第1期保管施設用地の一部)へ変更されています。

ちきりアイランドの南干潟

南干潟は、浚渫土砂を用いて人工的に造成し、平成16年2月に完成しました。面積は約5.4haあり、そのうち潮間帯(1日のうちに陸上になったり海中になったりする部分)が約1.4haになります。干潟には、魚類、甲殻類をはじめ、多くの生物が生息しており、餌を探してカワウやサギ類のほか、シギ、チドリなども渡りの途中にやってきます。干潟は、一般開放はせずに、これらの生物の聖域にしていきたいと考えています。



現在のまちのようす



建設発生土の受入

次に掲げる区域における公共工事(大阪市の区域にあつては大阪市発注事業を除き、和歌山県の区域にあつては和歌山県発注事業を除く)から発生する建設発生土の受入を行っています。

①大阪府の区域のうち次の区域

- 泉州地域
- 南河内地域
- 東大阪地域
- 大阪市地域

②和歌山県の区域のうち大阪府に隣接する市・町の区域

③奈良県の区域のうち阪南2区から半径50kmの範囲にある市・町・村の区域

阪南2区は大阪府都市整備部の積算基準に「公共工事間流用の受入地」として位置づけられており、建設発生土のリサイクルにも貢献しています。また、受入にあつては事前に契約を締結し、搬入車カード・搬入車証を交付すること、また建設発生土管理票を使用することにより、搬入車両や建設発生土の管理を適正に行っています。



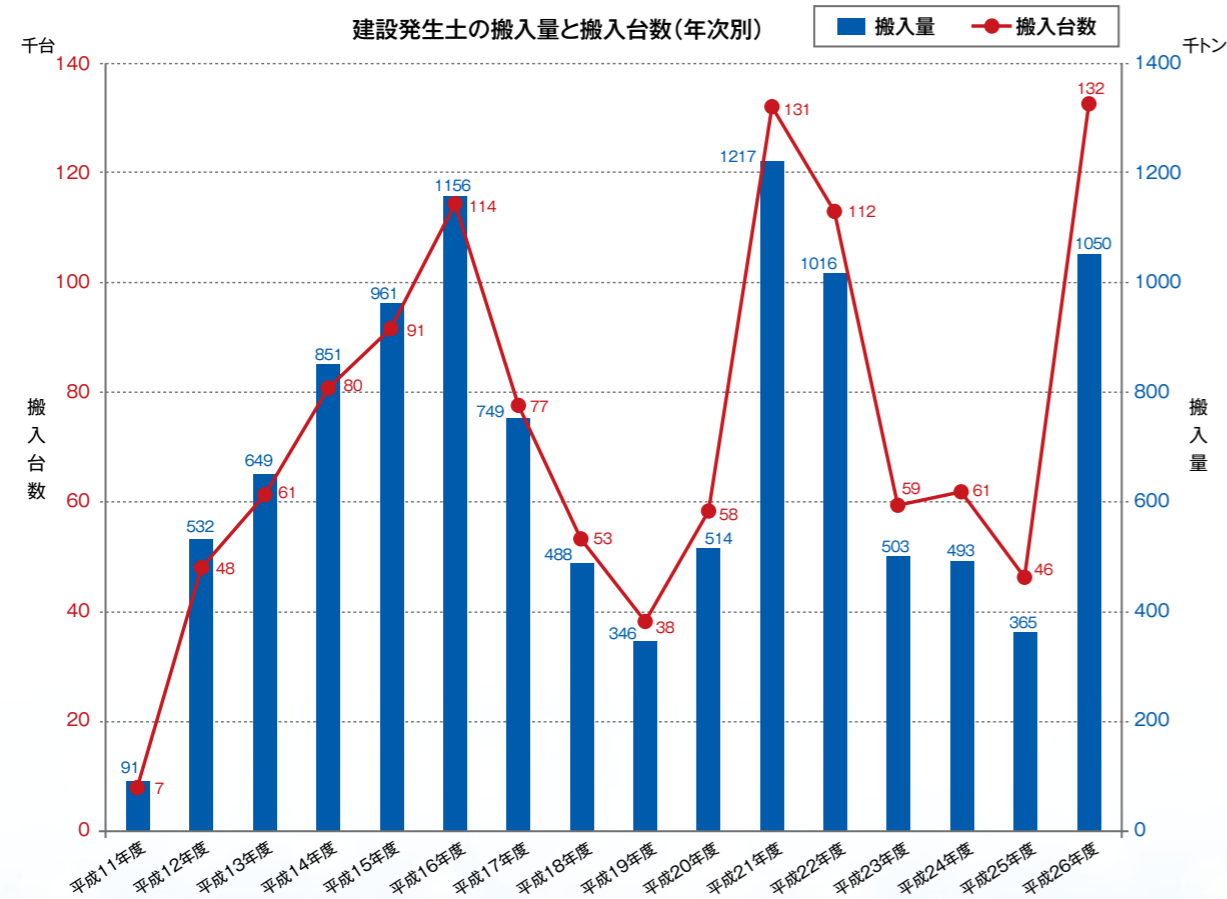
検収所に並ぶ搬入車



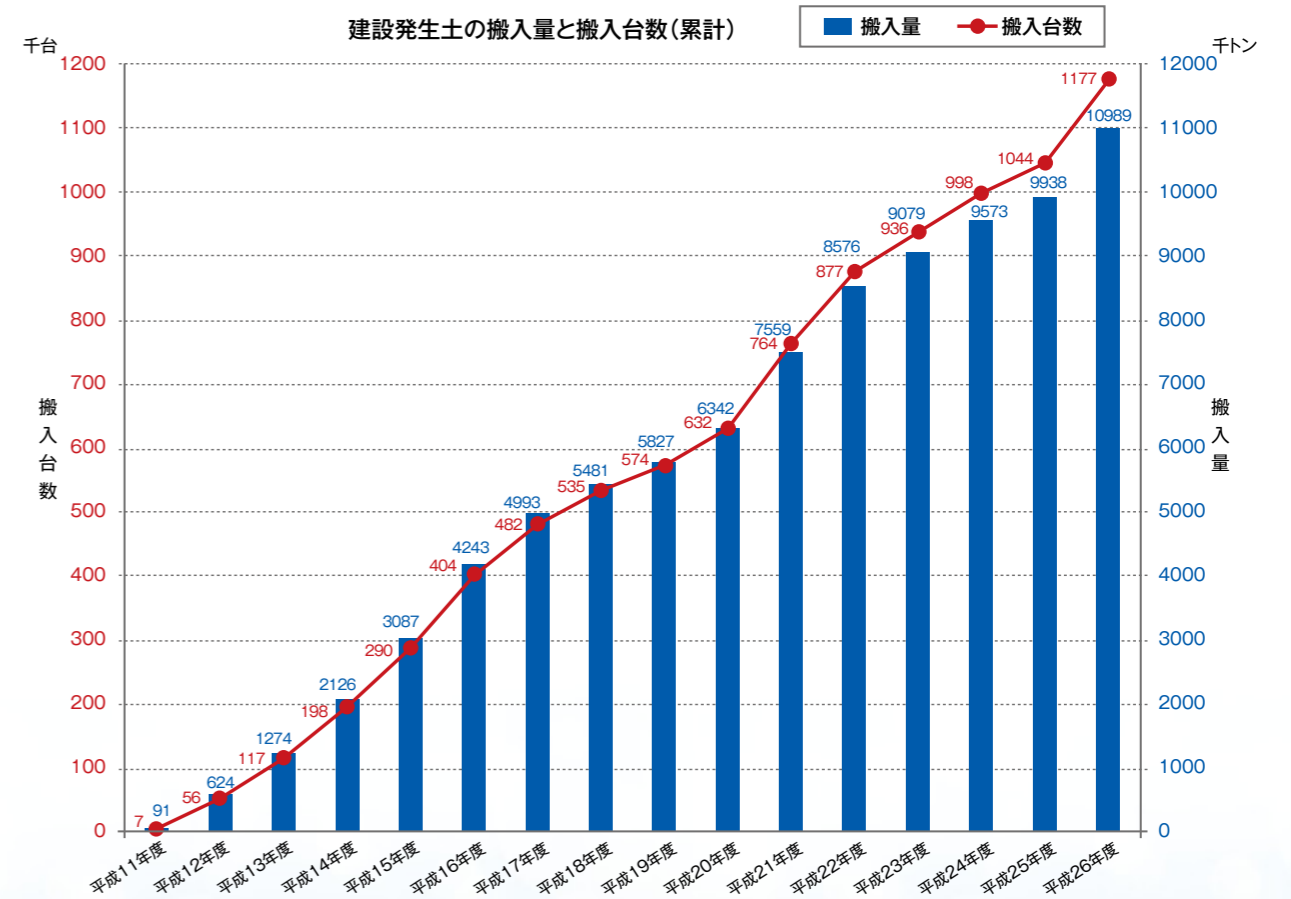
検収所 搬入量の計量

建設発生土の搬入量と搬入台数

年次別



累計



浚渫土砂の受入

大阪府が管理する港湾区域等で生じた浚渫土砂の受入を行っています。受入にあたっては、事前に契約を締結し、「入出域要領」等を遵守させることにより、安全や環境に配慮しています。

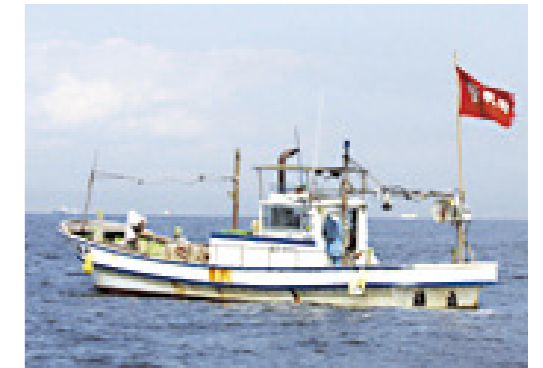
浚渫土砂の投入は、密閉式土運船からグラブバケット等により投入する方法と、底開式土運船の船底を開けて直接投入する方法のいずれの方法でも可能です。



浚渫土砂の投入(密閉式土運船)



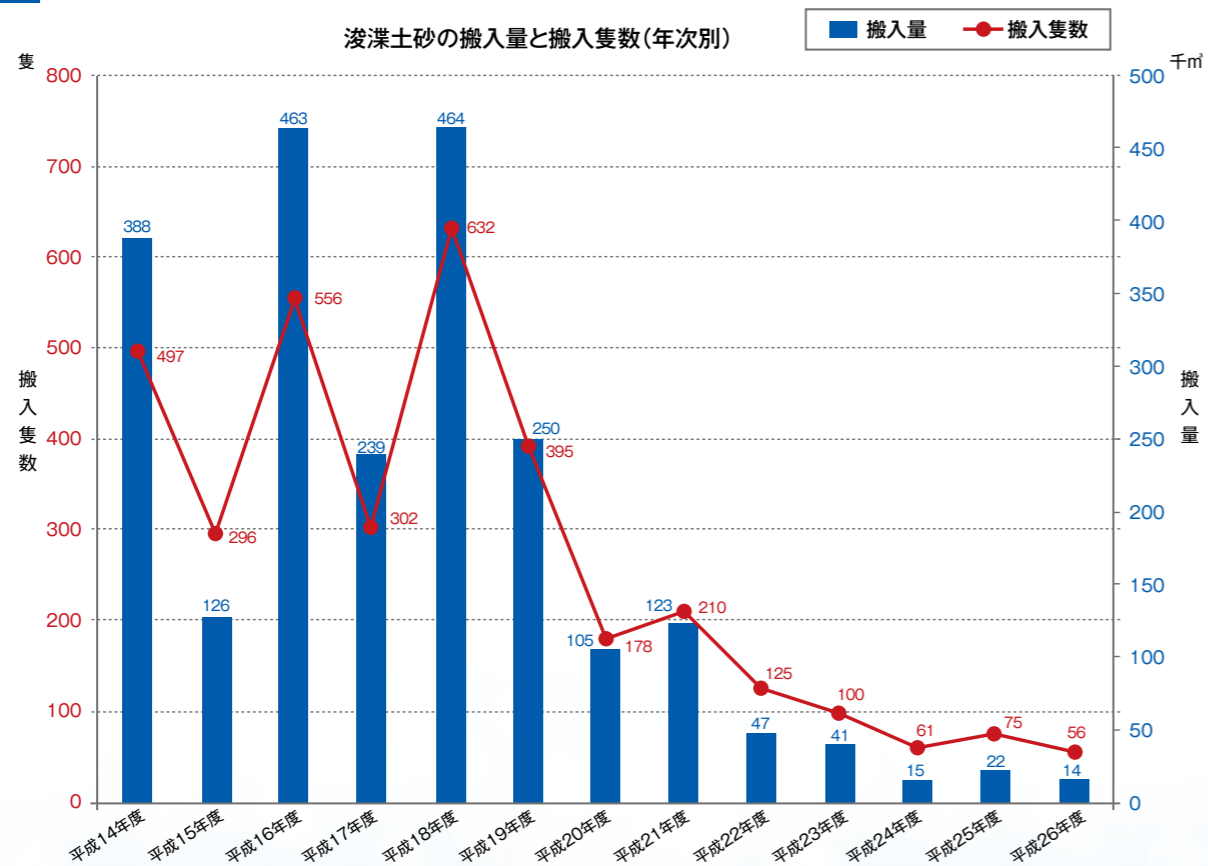
浚渫土砂の投入(底開式土運船)



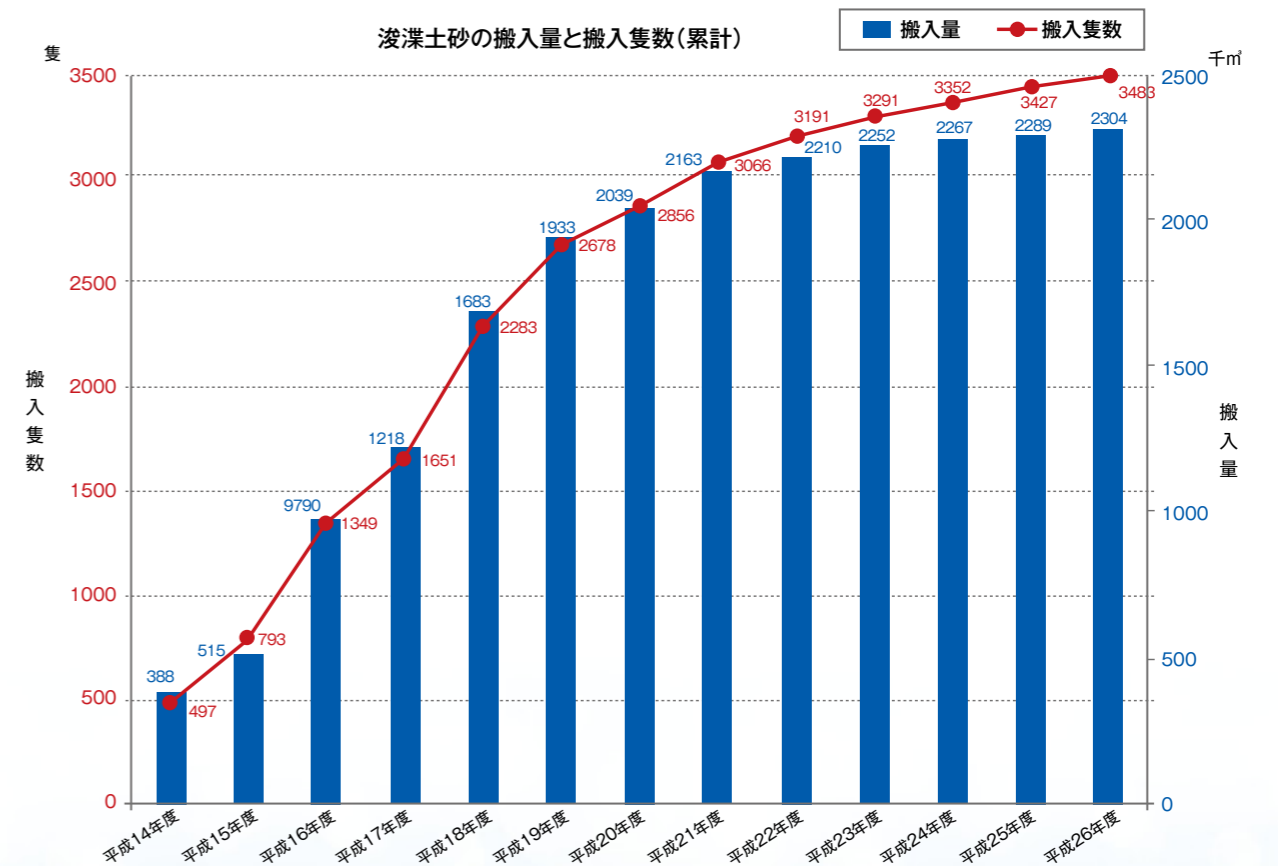
警戒船

浚渫土砂の搬入量と搬入台数

年次別



累計



ちきりアイランドの野鳥

ちきりアイランドには、さまざまな野生動植物が生息・生育しており、その中には絶滅のおそれのある野生動植物も含まれています。これまでにちきりアイランドで観察された野鳥及び人工干潟で生息している水生生物をご紹介します。(人工干潟内は関係者以外立入禁止です。今後も一般開放はせずにこれらの生物の聖域(サンクチュアリ)にしていきたいと考えています。)

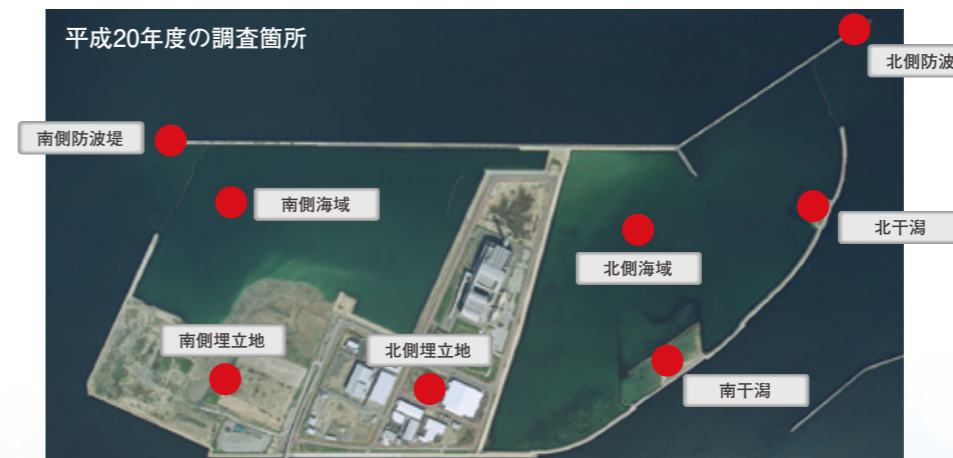
平成20年度の調査では、80種類ほどの野鳥が確認され、ここでは、それらの内「貴重種」を中心に、ちきりアイランドで観察された野鳥を紹介します。その後も、大阪府港湾局と公益財団法人大阪府都市整備推進センターでは、毎月1回、専門家のご協力のもとに継続して調査を実施してきました。

野鳥一覧

目名	科名	名前	繁殖	季節				貴重種アイコン					
				春季	夏季	秋季	冬季	!!!	!!!	!!	!		
カイツブリ	カイツブリ	ハジロカイツブリ					冬						
		カムリカイツブリ	📷	春				冬			!!		
ペリカン	ウ	カワウ	📷	春	夏	秋	冬				!!		
コウノトリ	サギ	ダイサギ	📷	春	夏	秋	冬						
		アオサギ	📷	春	夏	秋	冬						
カモ	カモ	マガモ	📷	春		秋	冬						
		カルガモ	📷	春	夏	秋	冬						
		コガモ					冬						
		ヒドリガモ	📷	春		秋	冬						
		オナガガモ	📷				冬						
		ハシビロガモ		春									
		ホシハジロ	📷			秋	冬						
		キンクロハジロ	📷			秋							
		スズガモ	📷	春		秋	冬						
		ホオジロガモ	📷				冬					!	
		ウミアイサ	📷	春		秋	冬					!	
		タカ	タカ	ミサゴ	📷	春	夏	秋	冬		!!!	!!	!
				トビ	📷	春	夏	秋	冬				
				ハイタカ		春					!!!	!!	!
サシバ				春					!!!	!!	!		
ハヤブサ	📷			春		秋	冬	!!!!	!!!	!!	!		
ツル	クイナ	バン			夏								
		コチドリ	📷	春	夏					!!	!		
チドリ	チドリ	シロチドリ	📷	春	夏	秋	冬			!!	!		
		メダイチドリ		春		秋				!!	!		
		ダイゼン*	📷		夏					!!	!		
		ケリ	📷	春	夏		冬			!!	!		
		キョウジョシギ	📷	春			冬			!!	!		
		トウネン	📷	春		秋				!!	!		
		ウズラシギ	📷	春		秋				!!	!		
	シギ	ハマシギ	📷	春		秋	冬			!!	!		
		ミユビシギ*	📷		夏					!!	!		
		アオアシシギ		春						!!	!		
		キアシシギ	📷	春	夏	秋				!!	!		
		イソシギ	📷		夏	秋	冬			!!	!		
		ソリハシシギ*	📷		夏					!!	!		
		オオソリハシシギ	📷	春						!!	!		
ホウロクシギ		春					!!!	!!	!				
チュウシャクシギ	📷	春	夏	秋				!!	!				

*一般生態では旅鳥であるが、現地調査では、8月下旬に確認されたため、「夏の野鳥」として分類した。

目名	科名	名前	繁殖	季節				貴重種アイコン				
				春季	夏季	秋季	冬季	!!!	!!!	!!	!	
チドリ	シギ	コシャクシギ				秋		!!!	!!!			
		セイタカシギ		春					!!!			
		ツバメチドリ					秋		!!!	!!	!	
		カモ	ユリカモメ	📷	春		秋	冬				
			セグロカモメ	📷	春		秋	冬				
			オオセグロカモメ	📷	春		秋	冬				
			カモメ		春			冬				
			ウミネコ	📷	春	夏	秋	冬				
			ズクロカモメ	📷			秋	冬		!!!	!!	!
			クロハラアジサシ			夏						
			アジサシ		春							
		ベニアジサシ	📷		夏				!!!			
コアジサシ	📷	○ 雑確認	春	夏			!!!	!!!	!!	!		
ハト	ハト	キジバト		春	夏	秋	冬					
		ドバト		春	夏	秋						
フクロウ	フクロウ	コミズク				冬			!!	!		
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	📷	○ 雑確認	春	夏	秋	冬				
		ツバメ		春	夏							
		セキレイ	📷	○ 雑確認	春	夏	秋	冬				
		ビンズイ				秋						
		ムネアカタヒバリ				秋	冬					
		タヒバリ		春		秋	冬					
		ヒヨドリ	ヒヨドリ		春			冬				
		モズ	モズ				秋	冬				
		ツグミ	ジョウビタキ				秋	冬				
			ノビタキ				秋					
イソヒヨドリ				夏	秋	冬						
ウグイス	オオヨシキリ		春						!!	!		
	セッカ	📷	春	夏	秋	冬			!!	!		
ヒタキ	キビタキ				秋				!!			
メジロ	メジロ					冬						
ホオジロ	ホオジロ				秋	冬						
	ホオアカ				秋	冬			!!	!		
	オオジュリン				秋	冬			!!			
アトリ	カワラヒワ			夏	秋	冬						
ハタオリドリ	スズメ	○ 雑確認	春	夏	秋	冬						
ムクドリ	ムクドリ		春	夏	秋	冬						
カラス	ハシボソガラス		春	夏	秋	冬						
	ハシブトガラス		春	夏	秋	冬						



- 貴重種アイコン
- !!! 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律
 - !!! 環境省レッドデータブック掲載種
 - !! 大阪府レッドデータブック掲載種
 - ! 近畿地区・鳥類レッドデータブック掲載種
- 四季アイコン
- 春 春季に確認された野鳥
 - 夏 夏季に確認された野鳥
 - 秋 秋季に確認された野鳥
 - 冬 冬季に確認された野鳥
- 📷 写真掲載

野鳥の種類

貴重種アイコン

- 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律
- 環境省レッドデータブック掲載種

大阪府レッドデータブック掲載種

近畿地区・鳥類レッドデータブック掲載種

四季アイコン

- 春季に確認された野鳥
- 夏季に確認された野鳥
- 秋季に確認された野鳥
- 冬季に確認された野鳥

カンムリカイツブリ

!! 春 冬



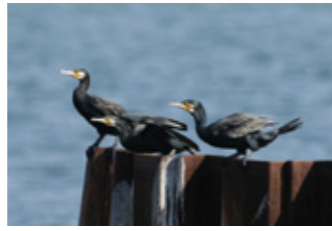
カイツブリ科。主に冬鳥として本州から九州に渡来。春季、冬季に南干潟や海域で確認された。

目名：カイツブリ目
科名：カイツブリ科



カワウ

!! 春 夏 秋 冬



ウ科。主に留鳥として本州から九州に分布。全季節を通じて海域や干潟、防波堤など様々な環境で確認された。

目名：ペリカン目
科名：ウ科



スズガモ

春 秋 冬



カモ科。冬鳥として全国に渡来。冬季に南干潟で確認された。

目名：カモ目
科名：カモ科



ホオジロガモ

! 冬



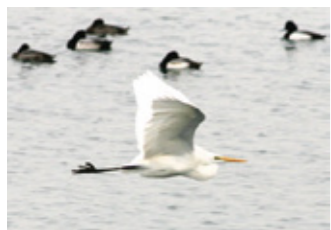
カモ科。冬鳥として九州以北に渡来。冬季に干潟や海域で確認された。

目名：カモ目
科名：カモ科



ダイサギ

春 夏 秋 冬



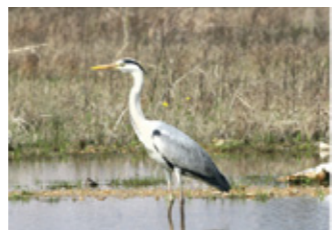
サギ科。主に夏鳥として九州以北に渡来するが、冬も少数が残る。全季節を通じて干潟、防波堤など様々な環境で確認された。

目名：コウノトリ目
科名：サギ科



アオサギ

春 夏 秋 冬



サギ科。主に留鳥あるいは漂鳥として九州以北に分布。全季節を通じて干潟、防波堤など様々な環境で確認された。

目名：コウノトリ目
科名：サギ科



ウミアイサ

! 春 秋 冬



カモ科。冬鳥として九州以北に渡来。春季及び秋季、冬季に北干潟、南干潟や海域で確認された。

目名：カモ目
科名：カモ科



ミサゴ

!!! !! ! 春 夏 秋 冬



タカ科。主に留鳥として全国に分布。春季から秋季に海域や南干潟など様々な環境で確認された。

目名：タカ目
科名：タカ科



マガモ

春 秋 冬



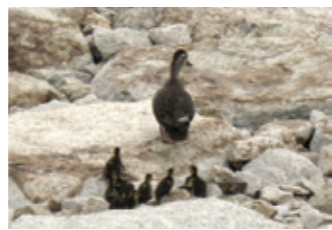
カモ科。主に冬鳥として全国に渡来。春季及び秋季、冬季に北干潟、南干潟や海域、埋立地で確認された。

目名：カモ目
科名：カモ科



カルガモ

春 夏 秋 冬



カモ科。主に留鳥として全国に分布。全季節を通じて埋立地や海域など様々な環境で確認された。繁殖も確認されている。

目名：カモ目
科名：カモ科



トビ

春 夏 秋 冬



タカ科。留鳥として九州以北に分布。全季節を通じて埋立地や海域など様々な環境で確認された。

目名：タカ目
科名：タカ科



ハヤブサ

!!! !!! !! ! 春 秋 冬



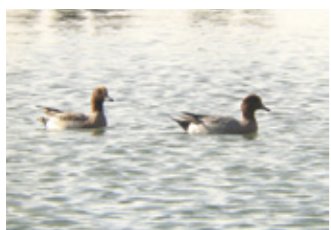
ハヤブサ科。主に留鳥として九州以北に分布。春季および秋季、冬季に海上や埋立地上で飛翔する個体が確認された。

目名：タカ目
科名：ハヤブサ科



ヒドリガモ

春 秋 冬



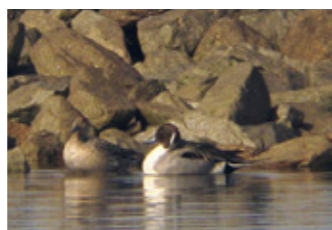
カモ科。冬鳥として全国に渡来。春季及び秋季、冬季に海域、干潟などで確認された。

目名：カモ目
科名：カモ目



オナガガモ

冬



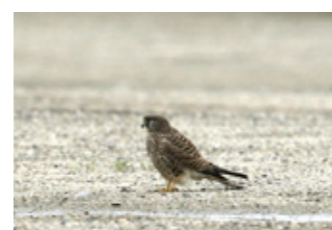
カモ科。冬鳥として全国に渡来。冬季に南干潟で確認された。

目名：カモ目
科名：カモ科



チョウゲンボウ

!! ! 秋 冬



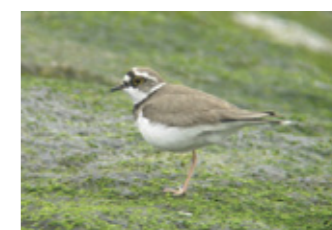
ハヤブサ科。冬鳥として全国に渡来。秋季、冬季に埋立地で確認された。

目名：タカ目
科名：ハヤブサ科



コチドリ

!! ! 春 夏



チドリ科。主に夏鳥として九州以北に渡来。春季から夏季に埋立地や北干潟、南干潟で確認された。

目名：チドリ目
科名：チドリ科



ホシハジロ

秋 冬



カモ科。主に冬鳥として全国に渡来。秋季、冬季に海域で確認された。

目名：カモ目
科名：カモ科



キンクロハジロ

秋



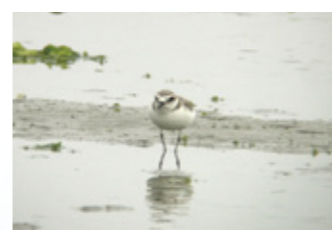
カモ科。主に冬鳥として全国に渡来。秋季に海域で確認された。

目名：カモ目
科名：カモ科



シロチドリ

!! ! 春 夏 秋 冬



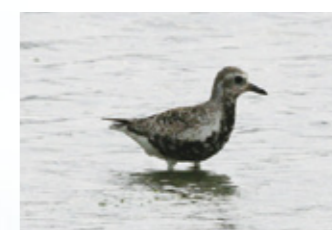
チドリ科。主に留鳥として全国に分布。全季節を通じて埋立地や防波堤、北干潟、南干潟などで確認された。

目名：チドリ目
科名：チドリ科



ダイゼン

!! ! 夏



チドリ科。主に旅鳥または冬鳥として全国に渡来。夏季に北干潟、南干潟で確認された。

※一般生息では旅鳥であるが、現地調査では、8月下旬に確認されたため、「夏の野鳥」として分類した。

目名：チドリ目
科名：チドリ科



野鳥の種類

貴重種アイコン

- 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律
- 環境省レッドデータブック掲載種

- 大阪府レッドデータブック掲載種
- 近畿地区・鳥類レッドデータブック掲載種

四季アイコン

- 春季に確認された野鳥
- 夏季に確認された野鳥
- 秋季に確認された野鳥
- 冬季に確認された野鳥

ケリ

!! 春 夏 冬



チドリ科。主に留鳥として近畿地方以北の本州に分布。夏季に埋立地や防波堤で確認された。繁殖も確認されている。

目名：チドリ目
科名：チドリ科



キョウジョシギ

!! ! 春 冬



シギ科。主に旅鳥として全国に渡来。春季、冬季に防波堤や北干潟で確認された。

目名：チドリ目
科名：シギ科



ユリカモメ

春 秋 冬



カモメ科。主に冬鳥として全国に渡来。春季及び秋季に海域と北干潟で確認された。

目名：チドリ目
科名：カモメ科



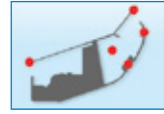
セグロカモメ

春 秋 冬



カモメ科。冬鳥として全国に渡来する。春季及び秋季、冬季に海域や防波堤など様々な環境で確認された。

目名：チドリ目
科名：カモメ科



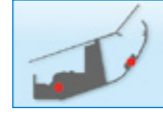
トウネン

!! ! 春 秋



シギ科。旅鳥として全国に渡来。春季および秋季に北干潟、南干潟や埋立地などで確認された。

目名：チドリ目
科名：シギ科



ハマシギ

!! ! 春 秋 冬



シギ科。旅鳥または冬鳥として全国に渡来。春季や秋季に北干潟、南干潟や防波堤などで確認された。

目名：チドリ目
科名：シギ科



オオセグロカモメ

春 秋 冬



カモメ科。東北地方北部以北に留鳥として分布し、それ以南には冬鳥として渡来するが、西日本では少ない。春季及び秋季、冬季に海域、防波堤、南干潟で確認された。

目名：チドリ目
科名：カモメ科



ウミネコ

春 夏 秋 冬



カモメ科。日本近海の特産種で、留鳥または漂鳥として全国に分布。全季節を通じて海域や干潟など様々な環境で確認された。

目名：チドリ目
科名：カモメ科



ミュビシギ

!! ! 夏



シギ科。旅鳥または冬鳥として全国に渡来。夏季に南干潟で確認された。

※一般生息では旅鳥であるが、現地調査では、8月下旬に確認されたため、「夏の野鳥」として分類した。

目名：チドリ目
科名：シギ科



キアシシギ

!! ! 春 夏 秋



シギ科。主に旅鳥として全国に渡来。春季から秋季に北干潟、南干潟や防波堤上で確認された。

目名：チドリ目
科名：シギ科



ズクロカモメ

!!! !! ! 秋 冬



カモメ科。冬鳥として主に関東地方以西に渡来。秋季、冬季に南干潟、防波堤、海域で確認された。

目名：カモメ目
科名：チドリ科



ベニアジサシ

!!! 夏



カモメ科。夏鳥として南西諸島に渡来。九州以北では台風などで迷行する程度だが、大阪府、福岡県で繁殖が確認された。夏季に埋立地で確認された。

目名：チドリ目
科名：カモメ科



イソシギ

!! ! 夏 秋 冬



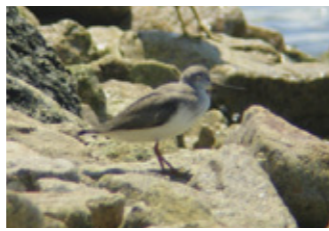
シギ科。留鳥として中部地方以南に分布。夏季及び秋季に埋立地や防波堤、北干潟、南干潟で確認された。

目名：チドリ目
科名：シギ科



ソリハシシギ

!! ! 夏



シギ科。旅鳥として全国に渡来。夏季、秋季、冬季に北干潟、南干潟、防波堤などで確認された。

※一般生息では旅鳥であるが、現地調査では、8月下旬に確認されたため、「夏の野鳥」として分類した。

目名：チドリ目
科名：シギ科



コアジサシ

!!! !!! !! ! 春 夏



カモメ科。夏鳥として本州以南に渡来。春季から夏季に埋立地や海域など様々な環境で確認された。繁殖も確認されている。

目名：チドリ目
科名：カモメ科



ヒバリ

春 夏 秋 冬



ヒバリ科。留鳥として九州以北に分布。全季節を通じて主として埋立地で確認された。

目名：スズメ目
科名：ヒバリ科



オオソリハシシギ

!! ! 春



シギ科。旅鳥として全国に渡来。春季に南干潟で確認された。

目名：チドリ目
科名：シギ科



チュウシャクシギ

!! ! 春 夏 秋



シギ科。主に旅鳥として全国に渡来。春季及び夏季、秋季に北干潟、南干潟や防波堤などで確認された。

目名：チドリ目
科名：シギ科



ハクセキレイ

春 夏 秋 冬



セキレイ科。留鳥または漂鳥として九州以北に分布。全季節を通じて埋立地、干潟など様々な環境で確認された。繁殖も確認されている。

目名：スズメ目
科名：セキレイ科



セッカ

!! ! 春 夏 秋 冬



ウグイス科。留鳥または漂鳥として本州以南に分布。全季節を通じて埋立地と南干潟で確認された。

目名：スズメ目
科名：ウグイス科



ちきリア일랜드の水生生物

人工干潟には、魚類、甲殻類をはじめ、多くの生物が生息しており、年々観測される種類も増えてきており、この干潟で生息するさまざまな水生生物をご紹介します。(調査期間:平成21年度～24年度)

水生生物一覧

分類	目名	科名	名前	確認場所	生活型
魚類	カサゴ目	カジカ科	アサヒアナハゼ	A・B	定住型
			サラサカジカ	A・B	定住型
		コチ科	コチ	A・B	来遊型
	フグ目	カワハギ科	アミメハギ	A	定住型
		フグ科	クサフグ	A・B・C	来遊型
	スズキ目	ハゼ科	ウロハゼ	A・B・C	定住型
			スジハゼA	A・B・C	定住型
			スジハゼB	A・B・C	定住型
			チチブ	B・C	定住型
			ドロメ	A・B・C	定住型
			ニクハゼ	A・B・C	定住型
			ヒメハゼ	A・B・C	定住型
			マハゼ	A・B・C	定住型
		タウエガジ科	ムスジガジ	A・B	定住型
		タイ科	キチヌ	B	来遊型
		キス科	シロギス	A	来遊型
		スズキ科	スズキ	A・B・C	来遊型
	メジナ科	メジナ	B	来遊型	
		カレイ目	カレイ科	インガレイ	A・B
		ヒラメ科	ヒラメ	A	来遊型
ニシン目	ニシン科	サツパ	B	来遊型	
ボラ目	ボラ科	ボラ	A・B・C	来遊型	
甲殻類	十脚目	ワタリガニ科	イシガニ	A・B・C	定住型
			チチュウカイミドリガニ	A・B・C	定住型
		モクズガニ科	タカノケフサイソガニ	A・B・C	定住型

分類	目名	科名	名前	確認場所	生活型
甲殻類	十脚目	スナガニ科	ハクセンシオマネキ	C	定住型
		ヤドカリ科	コブヨコバサミ	A・B・C	定住型
		ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	A・B・C	定住型
			ヨモギホンヤドカリ	A・B・C	定住型
		ガザミ科	ガザミ	A・B・C	来遊型
		テナガエビ科	スジエビモドキ	A・B・C	定住型
			ユビナガスジエビ	A・B・C	定住型
	テッポウエビ科	テッポウエビ	A・B・C	定住型	
		クルマエビ科	クマエビ	A・B・C	来遊型
			クルマエビ	B	来遊型
	ヨシエビ	A	来遊型		
口脚目	シャコ科	シャコ	A	来遊型	
軟体類	新腹足目	アッキガイ科	アカニシ	A・B・C	定住型
	マルスダレガイ目	マルスダレガイ科	アサリ	B・C	定住型
		チドリマスオガイ科	クチバガイ	C	定住型
		マテガイ科	マテガイ	C	定住型
	ウミタケガイモドキ目	オキナガイ科	ソトオリガイ	C	定住型
	アメフラシ目	アメフラシ科	トゲアメフラシ	A・B・C	定住型
その他	アカヒトデ目	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ	A・B・C	定住型
	楯手目	マナマコ科	マナマコ	A・B	定住型

出典:地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター ※画像の無断転載を禁じます。

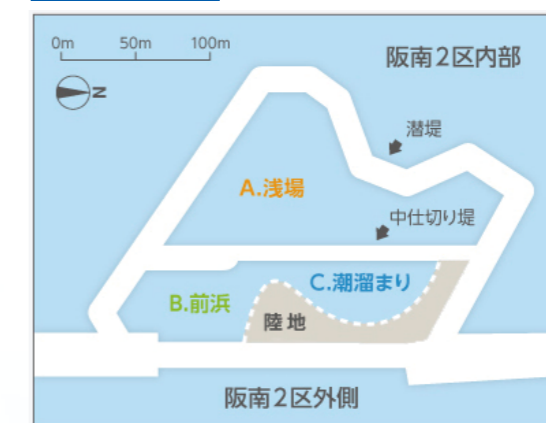
定住型

定住型とは一生のほぼ全てを人工干潟と近傍の水域で生活するもの。

来遊型

来遊型とは一生のうちある時期を人工干潟と近傍の水域で生活するもの。干潟は幼稚仔期の生き物の育成場として利用されます。

人工干潟区分図



- A:浅場**
潜堤内側に土砂を投入して浅くした場所 (水深2.5~3.0m)
- B:前浜**
波打ち際から水深が連続的に変化する場所 (水深0.0~2.0m)
- C:潮溜まり**
干潮時、干潟上のくぼみに海水が取り残されてたまる場所 (水深0.0~1.0m)

水生生物の種類

魚類（定住型）



アサヒアナハゼ



アミメハギ



ウロハゼ



サラサカジカ



スジハゼA



スジハゼB



チチブ



ドロメ



ニクハゼ



ヒメハゼ



マハゼ



ムスジガジ

魚類（来遊型）



イシガレイ



キチヌ



クサフグ



コチ



サツパ



シロギス



スズキ



ヒラメ



ボラ



メジナ

出典:地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター
※画像の無断転載を禁じます。

出典:地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター
※画像の無断転載を禁じます。

水生生物の種類

甲殻類（定住型）



イシガニ



コブヨコバサミ



スジエビモドキ



タカノケフサイソガニ



チチュウカイミドリガニ



テッポウエビ



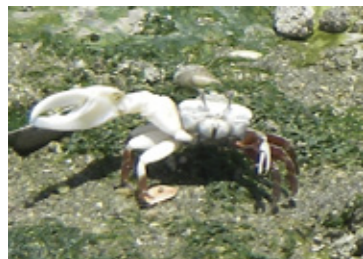
ユビナガスジエビ



ユビナガホンヤドカリ



ヨモギホンヤドカリ



ハクセンシオマネキ

出典:地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター
※画像の無断転載を禁じます。

甲殻類（来遊型）



ガザミ



クマエビ



クルマエビ



シャコ



ヨシエビ

軟体類（定住型）



アカニシ



アサリ



クチバガイ



ソトオリガイ



トゲアメフラシ



マテガイ

その他（定住型）



イトマキヒトデ



マナマコ

出典:地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター
※画像の無断転載を禁じます。